

詐欺への抵抗力を高める取り組み

特殊詐欺への抵抗力を判定するアプリの研究開発や、詐欺への抵抗力を向上させる普及啓発活動の拠点の構築に取り組みました。

研究開発プロジェクト

高齢者の詐欺被害を防ぐ しなやかな地域連携モデルの研究開発



研究代表者
秋田県立大学
総合科学教育研究センター 教授
渡部 諭

概要

超高齢社会ならではの社会問題である高齢消費者被害は、有効な対応策が見出されないまま被害が高水準に推移しており深刻化しています。経験のみに基づく従来の対策から抜け出し、心理学や ICT を駆使した科学的予測に基づく対応が求められる時期にきています。本プロジェクトでは、詐欺被害に遭いやすい心の「クセ」を認知心理学を応用した詐欺抵抗力判定アプリによって把握し、詐欺脆弱性予測に基づくオーダーメイドの被害防止策を提供する体制の構築を行いました。それが、国・警察・司法・自治体等の「公」空間と高齢者の日常生活である「私」空間をつなぐ「間」に構築されるしなやかな地域連携ネットワークです。更に、高齢者の生活全般への目配りにも配慮し、生活全般の改善にも努めました。

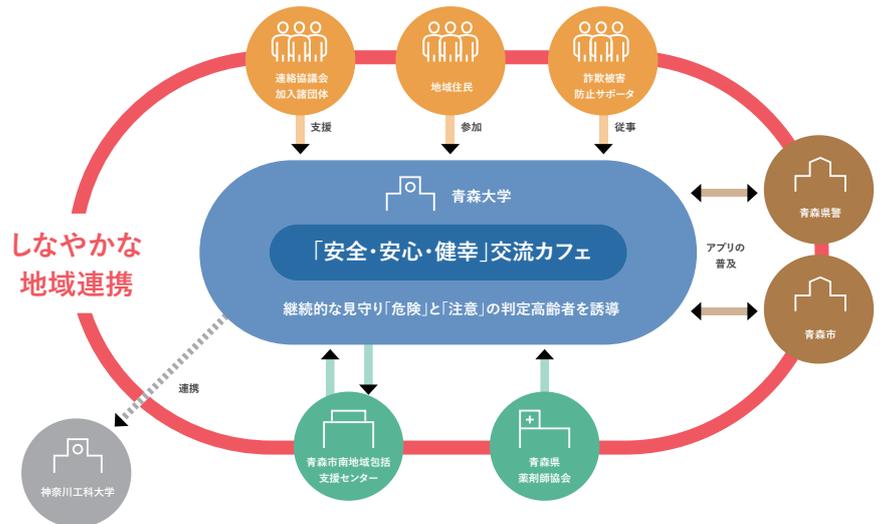
研究開発の成果

従来のような経験のみに基づいた特殊詐欺被害防止とは異なる対策を可能とする「特殊詐欺抵抗力判定アプリ」をプロジェクト活動の中で公開してきました。このアプリの利用に基づいて高齢者の生活全般についてお話を伺い、適宜援助を行う体制が構築されました。このような活動と並行して、軽度認知障害 (MCI) および認知症高齢者の消費者被害防止研究にも着手することができ、「特殊詐欺抵抗力判定アプリ」の普及には警察にも協力していただいております。更に、今後の活動の資料として研究活動を記録すると共に論文発表を多数行いました。

成果の活用場面

青森実装グループの役割は、大学主導型地域連携ネットワーク (地域連絡協議会) を構築し、アプリ等を用いて高齢者の詐欺抵抗力の向上のための活動を行うことです。青森県警、青森市、地域の町会、福祉団体等との連携の中、大学主導型のしなやかな地域連携を軸に詐欺抵抗力判定アプリの運用・啓発・相談等の活動を行ってきました。今後は、連絡協議会を軸に「安全・安心・健幸交流カフェ」を活動の場の中心としながら、外部にも出張し活動を展開していきます。

青森実装フィールド



成果の担い手・受益者の声

担い手

高齢者はアプリの操作時間に個人差があり、想定外の不具合も起こるなど、計画通り進まず難しいが、操作に慣れると楽しんでいる様子が見える。学生サポーターも、高齢者と直に課題解決できるため勉強になる。(サポーター)

受益者

アプリ判定結果の説明が良く分かり、周りの方との会話も弾みます。学生の寸劇が面白く、詐欺について興味を持てた。ロコモティブシンドローム予防のための体力測定も合わせてできるため、楽しみながら参加できる。(青森市在住高齢者)

目指す社会の姿／今後の課題・展望

「詐欺抵抗力判定アプリ」の利用を中心として、青森で大学を核として金融機関や医療機関、生協等が連携する地域連携協議会が構築され、神奈川では一般社団法人を中心とする地域密着型の連携体制が構築されました。それらの体制の中で、アプリの判定を契機としながら、高齢者の生活全般について相談に乗る活動が走り始めました。今後は、公的機関との連携の更なる深化が求められると共に、詐欺被害防止を担う次世代の養成が期待されるでしょう。その意味で、プロジェクトで実施したアクションリサーチに基づく青森での消費者教育や神奈川でのサポーターの養成は今後期待できる活動であると思います。